

ことさら<愛国心>を叫び、
その実これっぽっちも
自らの郷、
自らのくにへの愛情を持たぬ者達に較べ、

「越山会」

「陸山会」

自らのくにを愛するとはどういうことなのか
を、全力で示そうとした二人の政治家

田中角栄と小沢一郎、

そして彼らに託した、このくにに生きる多数
の物言わぬ民衆の思いが

いよいよ形となって示されるときがやっ

て来たのです。

われら ふるさとを愛し

このくにを愛するものとして

心から

小沢政権の誕生を祝し、

全力でその理念の実現を支えるものなり



<陸山会>にこめられた 小沢の思い

～ふるさとの山に向ひて

ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの山はありがたきかな

啄木が詠んだ歌です。



これまで
見てきたように、
政治家・官僚、さらには
マスコミが大きな力と
なって、
このくにが民の意志に
よって動くことを妨げ
てきました。

宗主国・アメリカの意志が何よりも優先され、
その扼（くびき）から自由になろうというこ
とを目指すリーダーたちを封殺してきました。

その攻撃がこれまでにないほどに過酷なものとしていま小沢一郎に集中しているのです。

「政治とカネ」というと必ず小沢の名前が登場し、そして同時に**陸山会**が登場します。悪の巣窟、あるいは錬金術の象徴であるかのごとくとりあげられる陸山会ですが、実はこの名前に小沢の大きな思いがこめられているのです。

岩手県の昔の呼び名は**陸中**（一部異なりますが）。

陸前・陸奥（みちのく）とつながり、かつてこの国の最辺境の地でした。最初にあげた岩手生まれの歌人、石川啄木の歌と併せて、

<陸>のくにを自らの拠って立つ根拠地と据えたと考えると、多くを語る必要はないでしょう。

かつてどこでも見られた日本の原風景、そこに根付き、そこから花開いていった豊かな文化。

小沢の思いとは、**富国強兵**とはまったく対極の、

<ひとは根拠地で幸せにくらす権利がある。それを可能にするのが政治の役割>ということに尽きるのです。

陸山会の名にこめられた小沢のもうひとつの思い。

師と仰ぐ田中角栄の政治団体の名を覚えていますか？

越山会。

越後、越の国の山を自らのシンボルと定め、陽の当たらぬ**裏日本**と呼ばれたこの地域、さらには**津々浦々の陰とされた地域を、等しくこの国の大事な一要素とする為に突っ走った田中角栄の思いを形こそ違えししっかりと受け止め、果たしてゆくのだ**という思いがこめられているのです。

田中と小沢の行動様式の違い、それは性格によるところもあるのですが、かの不識庵・上杉謙信が支配した**越後新潟**と、京の都に勝るとも劣らぬ文化を果ての地に**花開かせた奥州藤原氏の裔（すえ）たる岩手**との地域性と捉えるのは、あまりにご都合主義というべきでしょうか？